

## オリエンテーションからつなげる情報収集のための取り組み

### ～つなげよう 3冊の本～

東京学芸大学附属小金井中学校 司書教諭 松原洋子

学校司書 井谷由紀

#### 1. はじめに

本校では、数年前より全学年に各クラス1時間のオリエンテーションを4月に行えるようになり、図書館の使い方、情報収集の仕方、書誌情報の記録の仕方などを毎年繰り返し学習している。しかし、1年に1度の学習では不十分であり、3年間各教科の中で何度も学んでいくことで定着するのである。今回は、4月のオリエンテーションから約1ヶ月後の1年生のクラスで、総合的な学習の時間を使ってオリエンテーションの第2弾を行った。今後、さまざまな探究的な学習をしていく中で、横断的に多様な視点から物事を見る力や、必要な情報を取捨選択する力を養う事を目的としている。

#### 2. 本時の授業の構成

- ① ルールの説明 裏返しにされたカードを1枚ずつひき、そのテーマに沿った本を3冊探す。その際、すべて違う「類」から探す事を徹底する。
- ② 類の説明 「犬」を例にとって、4類の動物、6類の飼育、3類の社会福祉(盲導犬など)、7類の写真集、8類の漢字の成り立ち、9類の文学作品など、様々な類から探すヒントを与える。
- ③ 書誌情報の書き方の説明 「書名」「著者名」「出版社」「出版年」の4項目を奥付を見ながら書くように例をあげて指導。
- ④ 実際にカードを引いて探索活動 なかなか見つけられない生徒に個別に支援を行う。時間の都合でどうしても見つからない生徒には2冊でもよいこととする。
- ⑤ ワークシートに記入 書誌情報、類、テーマとのつながりを記入させる。
- ⑥ 投票 仲間のワークシートを読み、しっかりとテーマにそって本が繋がっていて、なるほどと納得できるものを一人選び、シールを貼る。
- ⑦ 票を集めた生徒のスピーチ 最も票を集めた生徒に、どこに気をつけてその本を選んだのかスピーチさせる。
- ⑧ 各自、感想を記入。



#### 3. 成果と反省

今回の授業は、今まで知らなかった世界に気づき、新しいものの見方を得る事を目的とした。こんな本があるのか、仲間はこんな風に考えるのかということを知り、本の世界を広げてほしいと考えた。ワークシートの感想を見ると、「1つのテーマなのに、関係している



本がこんなにたくさん、しかも違う分類でもあって驚いた。」「いつもは9類ばかり読んでいたが、この授業をしたおかげでいろいろな分類の本を見たり読んだり出来て、やりがいがあった。」「今回の企画で新たに面白そうな本と出会うことが出来た。」「本を選ぶときに一人ひとりの性格や考えが現れていて、見ていて面白かった。」など書かれており、目標はおおむね達したように思う。授業を参観した方からは、「単に分類や書誌情報を勉強するのではなく、積極的な活動の中で身に着けていた事が良い。」「途中仲間と交流することにより、本と図書館環境に触れるだけでなく、お互いの考えに触れて学びあう事が出来たことが意味のある提案であった。」などのご意見をいただいた。

ところでこの活動(ゲーム)は、今回は中学1年生のオリエンテーションの一環(総合の学習)として行ったが、冊数やテーマを工夫することで、他の校種、学年、教科でも実施可能と思われる。また、一人で探すことが難しければ班対抗で行うなど、いかようにもアレンジして実践する事ができる。本校ではこれまでも、いろいろな学年でこの実践をしてきたが、今年度は2年生でも行うことができた。柔軟な連想で本をつなぐ生徒が現れたり、それを認める発言がわきおこったりするなど、2年生は1年生よりも豊かな発想を示すことができた。

以前の実践では、各自が3冊を見つける事を最優先したため、放課後も活動を続けた生徒がいたが、今回の実践ではお互いのワークシートを見て仲間の考えに触れる事を優先した。そのため本探しは2冊で終了せざるをえなかった生徒が数名いた。お互いに自分の本を紹介する時間もとれたらいいというご意見もいただいたが、50分の授業内ではとても時間が足りない。どこに重点を置くかという事がポイントになる。

また、テーマとなる言葉は、これまでも実践を行うたびに検討し、生徒の実態に合ったよりよい言葉に差し替え、改訂してきた。テーマの吟味はこれからも継続して行う必要がある。ともあれ、仲間との交流を重視したため、視野が広がり、仲間の個性を再発見できたことは成果といえよう。(松原)

初めてこの授業を行ったのは2013年。司書教諭から、普段教えていない学級を対象に1時間の授業をすることになったので、何か図書館を使った授業をしたいと相談を受けた。POPや本の帯を作る提案もしたが、図書館をぐるぐる回って探す授業にしたいとの依頼を受け、このような授業を計画した。最初の授業の際にはワークシートとテーマを書いたカード50枚を用意して臨んだが、始めてみると「類」の知識が不徹底であることがわかった。また、例年3年生が総合のまとめを文集にするのだが、昨年度の文集では参考文献の記入が不十分な生徒が多かった。それゆえに、今回の授業では、「類」と「書誌情報」の指導に時間を取って詳しく説明した。これは今後も何度も繰り返し定着させることが必要である。

公開授業の対象となったクラスは、それまで比較的貸出数の少ないクラスであったが、本実践後、本の貸し出しが増加した。それまで全く借りていなかった生徒も、今回の活動中に気になる本が見つかったらしく、授業終了直後に借りていた。その後も日常的に図書館の資料に触れることで読書の量や質に変化が見られるのではないかと思われる。継続して支援していきたい。(井谷)